



「防犯灯と私の歩み」



かがつう株式会社 理事 照明本部 本部長 竹中 隆

今年のゴールデンウィークは3年振りに多くの旅行者で観光地は賑わい、これから経済が活性化していくことを大いに期待出来る光景となりました。5月8日には新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げられたことで、色々な制約も解除され、本格的なアフターコロナを迎えることとなりました。弊社においても照明事業の主力である防犯灯は、コロナ禍による自治体予算の削減の影響を受け、厳しい環境が続いておりましたが、今年度は道路灯・公園灯等の引き合いやお問合せが増えており、回復の兆しを感じております。

今回リレートーク寄稿の機会をいただきましたので、私が営業で携わってきた防犯灯販売の取り組みをご紹介します。

私が生まれた一か月後(S36年3月31日)に「防犯燈等整備対策要綱」が閣議決定され、防犯灯整備がスタートしましたので、日本の防犯灯整備は私の年齢同様62年間が経過しました。(ちなみに私の誕生日は昔の人気アイドル田原俊彦と同じです)

当たり前ですが、防犯灯は365日、都会でも田舎でも夕方暗くなれば自動的に点灯し、一定の明るさを保ち、朝方明るくなると自動的に消灯して、人々の安全・安心のために無くてはならないインフラです。(自動点滅器は外部の明るさの変化を感知し自動的に防犯灯を点灯、消灯する装置です)



FL20W防犯灯



一体式自動点滅器



分離式自動点滅器



マルチ電圧自動点滅器

1990年代まで防犯灯のランプは、蛍光灯20Wや水銀灯80W～100Wが主流でした。蛍光灯や水銀灯はJIS規格品であり、各ランプメーカーの光束・性能はほぼ同じであり、各社防犯灯の性能に大きな差はありませんでした。弊社の取り組みとして、道路を均一に広く照明するために透明カバーや反射板を工夫して明るさや配光性能UPに取り組んで来ました。LEDになった今でも、その取り組みは変わらず継続しています。

当時、自治体の防犯灯工事仕様書には複数メーカーの型番が記載されることが多かったため、いざ案件発注となれば入札に参加した電気工事会社や取引がある電材商社へ日参し、注文をいただけるまで営業

活動を行っていました。(当時は足で稼ぐのが当たり前の時代で、訪問先でライバルメーカーの営業マンと鉢合せになることはよくありました)

市・区役所へは頻繁に訪問して、一寸した要望や依頼事項(宿題)をいただき、出来る限り早く回答を持参して他社より小回りの利く営業を心掛けていました。又、常に新たなニーズや困りごと等、新商品開発に繋がるネタが無いかを意識してお客様に接し、情報収集に努めてまいりました。

東京23区では防犯灯本体に塗装色を指定する区役所が多くあり、色で役所の管理設備であることを明確化していました。蛍光灯の寿命は2年程度で、水銀灯の寿命は4~5年程度なので、ほぼ毎日掛かってくる住民からの不点陳情を捌くのに一役買っていました。

(防犯灯の年間点灯時間は約4,000hです)

都内を車で走っていれば防犯灯の色で区界が分かりましたし、今でもその名残が残っている場所もあります。

2000年にはインバータ式蛍光防犯灯を商品化し販売しました。当時、各種施設のダウンライト等に使われていたインバータ式蛍光灯を防犯灯に搭載し水銀灯80W~100Wクラスの代替防犯灯として多くの自治体で採用していただき、防犯灯では初の「グッドデザイン賞」を受賞することが出来ました。弊社にとっては大変画期的な出来事であり、その商品開発に営業の中心として参画出来たことはとても良い経験と財産になりました。



グッドデザイン賞受賞器具
コンパクト型蛍光ランプ搭載防犯灯
FHT32W、FHT42W、FHT57W

2009年頃からLED光源を搭載した防犯灯が使われ始め、長い期間使われてきた放電灯(蛍光灯や水銀灯等)を搭載した防犯灯が、徐々に減り始めました。

2011年の東日本大震災後には計画停電で街が真っ暗になる経験をしました。灯りのない生活をとても不安に感じた人は大勢いたと思いますし、早く防犯灯の灯りがある日常に戻って欲しいと、皆が願っていたと思います。

2012年には、災害等による停電時でも点灯する蓄電池内蔵防犯灯を開発して、販売を開始しました。避難場所や避難路の灯りとして多くの自治体で採用して頂いております。

2013年より環境省の地球温暖化対策補助金を活用して、防犯灯のLED化を行う自治体が増えてきました。長寿命化による維持管理費の低減や、電力料金の削減効果もあり、多くの自治体で防犯灯を一斉にLED化する事業が全国規模で行われ、一気にLED防犯灯の普及が進みました。自治体が導入したリース事業やESCO事業は、数千台~数万台規模でLED防犯灯の取替工事が発注されることとなり、この10年間で国内防犯灯の90%程度がLED防犯灯に置き替わったと推定されます。



10VAアルミダイカスト製
LED防犯灯



20VAアルミダイカスト製
LED防犯灯



10VA ASA樹脂製
LED防犯灯

今後、是非設置を進めて欲しい防犯灯を一つご紹介させていただきます。

全国各地で田んぼが隣接した住宅地に多くの住民が暮らしているのに防犯灯の設置が進んでいない実態があります。それは田んぼ周辺に防犯灯が設置されると、稲に光害（ひかりがい）を与える場合があり、光害を受けた稲は出穂が遅れ、農家さんの収穫問題になる場合があるためです。

住民は夜間の安全・安心のために防犯灯の設置を望んでいますが、農家さんからの承諾が得られず、田んぼ周辺道路の防犯灯設置が進まない大きな要因となっています。

このような社会問題を解決するため、2015年に弊社は光害阻止LED防犯灯を発売しました。（山口大学との共同開発で、稲の出穂遅延に対して照明光の影響を抑えた防犯灯で、田んぼ周辺の道路でも安心して設置が出来る防犯灯です）



光害阻止LED防犯灯



設置現場写真

現在、採用していただいた自治体は徐々に増えてきましたが、まだ未設置の道路（通学路）は沢山あります。住民の安全・安心と農業振興を両立するために光害阻止LED防犯灯をもっと多くの自治体担当者さんや農家さんに知って貰い、まずは子供の安全・安心のために、田んぼ周辺の通学路から優先的に光害阻止LED防犯灯を普及させていく必要があると思います。

田んぼ周辺で防犯灯の設置を望んでいる自治体さんがありましたら、是非弊社にご相談いただけますようお願いいたします。

以上